

平成29年3月6日

「家庭で答えるアンケート」 検証

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
アンケート回収率		86%	82%	83%

2) 保護者と子どもの会話時間

1. 小学生では会話時間が多くみられるが、中学生になると会話時間が短くなる。
2. 女子が男子と比べ、会話時間が多く見受けられた。特に中学生男子は小学校時に比べて会話時間が約半減している。

3) どのような話をするか

1. 学校、友だち、勉強、趣味や習い事の項目で高い数値が出た。将来の事に関する数値は低いが小学生と中学生が同じ割合で保護者と話しをしている傾向にみられる。
2. 全部の項目で女子が男子と比べ数値が高い傾向に見られるが、趣味や習い事に関しては小学生男子の数値が高い。

4) 昨年度のアンケート結果から

①どんな朝食か

1. 7割がバランスの取れた朝食を摂っているが、高い数値と言えない。今後も食育の観点からもバランスの取れた食事の重要性を訴える必要がある。
2. 男子が女子に比べ「主食+おかず」の朝食をとる数値が高く、「主食」のみとなると女子の数値が高くなる。

②将来への話し合い

1. 小学生に比べ、中学生になると進学が関わっているので将来への話をしている家庭が多い。
2. 会話時間の多さにも関係すると思われるが女子のほうが男子に比べ若干だが「話し合っている」数値が高い。

③1日の学習時間

1. 小学生は概ね1時間以内。男子より女子の学習時間が多い。
中学生は2～3時間の割合が増える(31.9%)塾などの影響か。
2. 「子どもが勉強しない」割合が中学生になると増える。部活等の影響や、後述の睡眠時間、スマホ・ゲーム等の使用時間に比例した結果とも言える。男女の割合は男子のほうが多い。

④睡眠時間

1. 全体的に多くの子供が7～8時間程度の睡眠を確保している。
2. 中学生の3割弱（中学生女子については31%）の子どもが夜中1・2時に寝ている事になる。

5) 「いじめ」について

①いじめに関わったことがあるか

前回（平成27年度）アンケートの数値を参考にするに「いじめを受けたことがある」が小学生全体で2.5ポイント悪くなり、中学校全体では1ポイント改善している。特に小学生男子の4人に一人がいじめを受けたことがあるという結果になった。逆に中学生になると男子へのいじめは減る傾向にある。

●前年度との比較

5-①-1	いじめを受けたことがある。					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	19.8%	14.3%	20.6%	19.0%	12.2%	16.4%
平成28年	22.3%	13.3%	25.5%	19.2%	12.5%	14.0%
	-2.5%	1.0%	-4.9%	-0.2%	-0.3%	2.4%

5-①-2	いじめを受けたことがない。					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	63.5%	65.5%	60.6%	66.3%	68.1%	63.0%
平成28年	62.7%	67.9%	59.6%	66.0%	67.0%	68.9%
	0.8%	-2.4%	1.0%	0.3%	1.1%	-5.9%

②いじめに対してどう思うか

中学校の方が、いじめはいけないという意識が低い。

前回（平成27年度）アンケートを参考にするに「いじめはなくなると思えない」は小学生全体で2.5ポイント悪くなっている。

●前年度との比較

5-②-4	いじめはなくなると思えない					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	33.9%	42.4%	34.2%	33.6%	40.4%	44.2%
平成28年	36.4%	42.6%	37.1%	35.9%	40.5%	44.9%
	-2.5%	-0.2%	-2.9%	-2.3%	-0.1%	-0.7%

市P協「家庭で答えるアンケート！」検証に係る教育委員会コメント

【主に生活習慣に係る内容】

各家庭における保護者と子どもの会話は、健やかな成長で必要不可欠なものです。会話を通して、保護者の思いを伝え、子どもを理解することができます。しかし、思春期になると、子どもが保護者の話を真剣に聴いたり、自分のことを積極的に話したりすることが難しくなります。この現象はある意味では自然なこととして受け止めていく必要があります。そういった意味でも、思春期までに、会話を中心とした関わりを通して、子どもとの信頼関係を築くかが、思春期以降の子どもとの関係に深く影響します。また、円滑な会話をしていくためには、“TPO”も工夫する必要があります。時間・場所・タイミングを考慮しながら、極力、子どもが肯定的に捉えられるような話題をきっかけに、自然なキャッチボールができるようにしていきたいものです。

朝食の摂取の重要性については、以前から指摘されてきました。食育の側面、1日の生活のリズムの側面、また、先述の子どもとのコミュニケーションの側面等、さまざまなメリットがあります。

将来への話し合いについては、子どもの発達段階でアプローチを工夫する必要があります。小学校低学年から中学年の段階では、“夢”レベルのことでも保護者が関心をもって話を聴き、認め、励ましていくことで、日々の生活や学習に前向きに取り組むことができます。小学校高学年から中学校の段階では、自我が目覚め、現実が見えてくる時期です。ニュース等で報道される社会事象等を話題にしながら、家庭におけるキャリア教育を行っていくことで、主体的に将来への展望を考えるようになります。

1日の学習時間や睡眠時間についても、子どもの発達段階において、その捉え方が異なってきます。特に、小学校低学年時から大人として行うべき“習慣化”や“しつけ”がその後大きく影響してくると思われれます。規則正しい生活を送ることは、子どもの健全な成長においてとても大切であり、重要です。その上で、道徳心を養ったり自律を促したりしながら、子どもたちの発達を手助けしていく必要があります。(教育指導課)

ケータイ等に関するアンケート

1) どのような機種を持っているか

1. 小学生が63%に対して中学生は83%がスマホ・ガラケー等を所持している。
2. 中学生のスマホ所持率は小学生から51%も上がっている事は注目すべき点である。
3. インターネット接続できるゲーム機の所持率は小学生男子においては48.4%と2人に一人は所持している。機能を使いこなせるようになるとスマホを所持する必要がないと思われる。

●前年度との比較

子どもにどのような機種を持たせていますか？						
1-1	スマホ					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	10.6%	61.0%	10.4%	10.8%	58.4%	63.3%
平成28年	13.8%	65.4%	11.0%	16.4%	62.0%	68.7%
	-3.2%	-4.4%	-0.6%	-5.6%	-3.6%	-5.4%
1-2	タブレット					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	10.1%	10.9%	11.2%	9.1%	12.0%	9.7%
平成28年	19.5%	17.2%	19.5%	19.5%	18.0%	16.5%
	-9.4%	-6.3%	-8.3%	-10.4%	-6.0%	-6.8%
1-3	ガラケー					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	21.8%	19.5%	16.8%	26.1%	17.1%	21.7%
平成28年	15.9%	13.6%	13.9%	17.9%	12.7%	14.4%
	5.9%	5.9%	2.9%	8.2%	4.4%	7.3%
1-4	キッズケータイ・スマホ					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	28.4%	2.4%	27.1%	29.4%	2.4%	2.5%
平成28年	32.9%	4.2%	32.2%	33.6%	3.6%	4.7%
	-4.5%	-1.8%	-5.1%	-4.2%	-1.2%	-2.2%
1-9	持たせていない					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	35.6%	13.0%	40.8%	31.0%	16.2%	10.1%
平成28年	11.5%	4.9%	10.8%	12.2%	5.9%	3.9%
	24.1%	8.1%	30.0%	18.8%	10.3%	6.2%

※持たせていない割合が前年度より減った。スマホやガラケー以外の機械もインターネットへの接続が出来るとの認識が広まったのも原因でないか。

2)

①平日の平均使用時間

中学生になると2～4時間以上(38.7%)の使用があり、前問と照らし合わせると確実に勉強時間と睡眠時間を削っている。

●前年度との比較

平日の平均使用時間						
2-①-1	1時間未満					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	69.1%	28.3%	63.7%	73.5%	25.9%	30.5%
平成28年	57.5%	23.9%	52.7%	62.0%	21.4%	26.0%
	11.6%	4.4%	11.0%	11.5%	4.5%	4.5%
2-①-2	1～2時間					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	17.7%	35.9%	19.8%	16.0%	38.1%	34.2%
平成28年	24.6%	35.5%	26.7%	22.6%	36.3%	35.0%
	-6.9%	0.4%	-6.9%	-6.6%	1.8%	-0.8%
2-①-3	2～4時間					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	6.0%	25.3%	7.1%	5.1%	27.3%	23.5%
平成28年	11.8%	29.9%	14.1%	9.7%	31.7%	28.3%
	-5.8%	-4.6%	-7.0%	-4.6%	-4.4%	-4.8%
2-①-4	4時間以上					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	1.5%	7.9%	1.9%	1.2%	6.0%	9.4%
平成28年	2.6%	8.8%	2.4%	2.8%	8.1%	9.5%
	-1.1%	-0.9%	-0.5%	-1.6%	-2.1%	-0.1%

※昨年度との比較では確実に使用時間は多くなっている。

②休日の使用時間

1. 小学生は2時間以上の使用が約3割になる。
2. 中学生は2時間以上の使用が6割を超える。

●平日と休日の比較

2-①-1	1時間未満					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平日	57.5%	23.9%	52.7%	62.0%	21.4%	26.0%
休日	46.6%	15.6%	43.2%	49.7%	14.7%	16.3%
	10.9%	8.3%	9.5%	12.3%	6.7%	9.7%
2-①-2	1～2時間					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平日	24.6%	35.5%	26.7%	22.6%	36.3%	35.0%
休日	22.3%	22.1%	21.2%	23.5%	20.4%	23.5%
	2.3%	13.4%	5.5%	-0.9%	15.9%	11.5%
2-①-3	2～4時間					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平日	11.8%	29.9%	14.1%	9.7%	31.7%	28.3%
休日	19.2%	32.9%	22.3%	16.4%	34.3%	31.7%
	-7.4%	-3.0%	-8.2%	-6.7%	-2.6%	-3.4%
2-①-4	4時間以上					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平日	2.6%	8.8%	2.4%	2.8%	8.1%	9.5%
休日	9.8%	28.2%	11.0%	8.6%	28.9%	27.7%
	-7.2%	-19.4%	-8.6%	-5.8%	-20.8%	-18.2%

3) 利用時間が一番長いもの

1. 中学生の男女において使い方に差が出ている。(男子：ゲーム・女子：SNS)
2. 小中で比べるとスマホの所持率が増えると SNS の比率が比例して上がる傾向にある。

●前年度との比較

ケータイ・スマホで一番利用時間が長いのは？						
3-1	電話					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	26.1%	3.8%	26.7%	25.6%	4.2%	3.4%
平成28年	19.9%	3.6%	19.9%	19.9%	4.4%	2.8%
	6.2%	0.2%	6.8%	5.7%	-0.2%	0.6%
3-2	SNS					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	6.2%	36.0%	3.9%	7.9%	22.5%	47.6%
平成28年	5.9%	35.9%	2.5%	9.4%	22.1%	49.4%
	0.3%	0.1%	1.4%	-1.5%	0.4%	-1.8%
3-3	メール					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	17.4%	13.3%	8.6%	24.3%	9.0%	16.9%
平成28年	10.1%	7.2%	5.5%	14.7%	4.6%	9.7%
	7.3%	6.1%	3.1%	9.6%	4.4%	7.2%
3-4、5	ゲーム・動画、音楽 <small>注)</small>					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	48.1%	52.2%	55.1%	42.7%	67.4%	39.0%
平成28年	67.3%	67.5%	74.6%	60.3%	82.1%	53.5%
	-19.2%	-15.3%	-19.5%	-17.6%	-14.7%	-14.5%
3-6	勉強					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	1.1%	1.1%	1.2%	1.1%	0.7%	1.5%
平成28年	2.7%	3.1%	2.4%	3.1%	2.0%	4.1%
	-1.6%	-2.0%	-1.2%	-2.0%	-1.3%	-2.6%
3-7	ネット検索					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	6.1%	6.2%	6.8%	5.6%	4.7%	7.3%
平成28年	5.0%	6.6%	4.8%	5.2%	4.7%	8.4%
	1.1%	-0.4%	2.0%	0.4%	0.0%	-1.1%

注) 今年度の設問ではゲームと動画・音楽は分けていましたが、前年度の設問では同一枠だったので今年度の数値は合算したものとなっています。

4) ①フィルタリングの義務化

フィルタリングについての認識は8割以上で広まっている。ただ、子どものスマホ等にフィルタリングをかけているかが不明。危険なアプリを保護者の立場としても認識していくことが重要になっていく。

●前年度との比較

フィルタリング設定について						
4-①	設定している(知っている)					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	66.4%	69.4%	66.1%	66.7%	70.4%	70.8%
平成28年	83.3%	93.4%	84.5%	81.1%	93.7%	93.1%
	-16.9%	-24.0%	-18.4%	-14.4%	-23.3%	-22.3%
4-①	フィルタリングを知らない					
	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	27.9%	27.9%	26.7%	28.7%	26.9%	28.5%
平成28年	2.8%	2.4%	2.4%	3.3%	2.1%	2.7%
	25.1%	25.5%	24.3%	25.4%	24.8%	25.8%

4) ②フィルタリングについて

1. 設定している小学生は(74.5%)、中学生は(80.0%)。多くの家庭ではフィルタリングを設定しているが、設定解除や知らないという家庭では子どもの利用内容に注意をするべき。

5) ゲーム時間

スマホのゲームを含めると8割以上の子どもがゲームをしている。手軽に(無料)入手できるスマホゲームは子どもも大人も時間を忘れて楽しんでしまう。ユーチューブなどの好きな時間に好きな番組が見られる動画サイトなども利用時間の増加に繋がると思われる。

6) -①スタンダードに関して

小学校で約 33%、中学校で約 40%の保護者が読んでいない、知らないとなっている。保護者のみ読んだは、小学校(47.3%)、中学校(35.0%)。小学校では持たせていないので読まないという意見もある。中学校では知らない割合が多く。周知徹底の必要性がある。

●前年度との比較

「よこすか ケータイ・スマホ スタンダード」を読みましたか？						
保護者・子ども共に読んだ						
6-①-1	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	18.7%	24.7%	16.1%	20.8%	21.4%	27.7%
平成28年	15.7%	21.1%	13.9%	17.6%	19.2%	21.0%
	3.0%	3.6%	2.2%	3.2%	2.2%	6.7%
保護者のみ読んだ						
6-①-2	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	53.6%	39.8%	54.2%	53.0%	41.3%	38.6%
平成28年	47.3%	35.0%	47.4%	47.3%	36.8%	33.5%
	6.3%	4.8%	6.8%	5.7%	4.5%	5.1%
子どものみ読んだ						
6-①-3	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	1.0%	3.0%	1.2%	0.8%	3.2%	2.8%
平成28年	1.1%	2.7%	0.9%	1.4%	2.7%	2.7%
	-0.1%	0.3%	0.3%	-0.6%	0.5%	0.1%
配布されたが読んでいない						
6-①-4	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	14.3%	13.2%	14.4%	14.4%	13.5%	13.0%
平成28年	14.8%	15.4%	16.5%	13.1%	14.4%	16.3%
	-0.5%	-2.2%	-2.1%	1.3%	-0.9%	-3.3%
知らない						
6-①-5	小全体	中全体	小男	小女	中男	中女
平成27年	10.8%	17.9%	12.2%	9.7%	19.1%	16.8%
平成28年	18.7%	24.8%	19.1%	18.2%	25.2%	24.3%
	-7.9%	-6.9%	-6.9%	-8.5%	-6.1%	-7.5%

6) -②どの位話しているか

約5割が話していない現状を鑑みると、ルールを活かし方を考えなくてはならない。

6) -③どの効果を一番期待するか？

依存症を防ぐことが一番期待できる効果ではないかという回答が多かった。スタンダードを利用することで他の効果も期待ができることを周知していきたい。

6) ④我が家ルールについて

多くの親が作る必要性は感じている結果が出た。

7) 今後について

これからも話し合うという回答が7割近くになっている。ガラケーは安心、スマホは危険なものと言われているように子どもを取り巻くインターネット環境は日々変化をしている。変化に合わせて横須賀市 PTA 協議会の活動も変えていく必要がある。

市P協「家庭で答えるアンケート！」検証に係る教育委員会コメント

【主に携帯電話・スマートフォンに係る内容】

「家庭で答えるアンケート」からは携帯電話等の所持率は年々高まり、今年度は小学生 75.9%、中学生 91.9%となっており、使用時間も長くなっている結果がでています。中でも中学生のスマホ所持率は 65.4%で、小学生より 51.6%も高くなっています。文部科学省による『平成 27 年度問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』では、「パソコンや携帯電話等で誹謗・中傷や嫌なことをされる」割合は全国平均で小学生 1.4%、中学生 7.8%に対して、横須賀市は小学生 1.7%、中学生 13.1%となっており、とても高い結果がでています。実際に SNS から人間関係のトラブルが生じ、登校渋りを起こすケースも出ています。フィルタリングについては、小中学生とも 70~80%は何らかの形で設定していると回答していますが、「購入後の設定解除や設定しているか知らない」と回答した家庭もあります。

ご家庭では、日頃より他人への思いやりなど、モラルやマナーについて話し合う機会を設けて頂いていると思います。

携帯電話・スマホに係るトラブルの防止や、依存症の危険性等から子どもたちを守るためにも、家庭と学校が協力、連携してフィルタリングの必要性や使用におけるルール作りについて話し合うことが大切です。『よこすか ケータイ・スマホ スタンダード』をご活用ください。(支援教育課)